

# 下関市総合計画

SHIMONOSEKI CITY MASTER PLAN

## [参考資料]

- I. 基本構想
- II. 後期基本計画策定について
- III. 下関市総合計画審議会
- IV. 市民アンケート調査の概要
- V. 地区別ワークショップの概要
- VI. 市民会議の概要

# I. 基本構想

## 1. 序論

### 第1章 総合計画とは

#### 1 計画策定の趣旨

下関市総合計画は、合併協議のなかで策定した「新市建設計画」を基本としつつ、本市が将来に目指す市民生活や地域社会のすがたをわかりやすく示し、その実現にあたって必要な施策を定めたものです。

#### 2 計画の構成

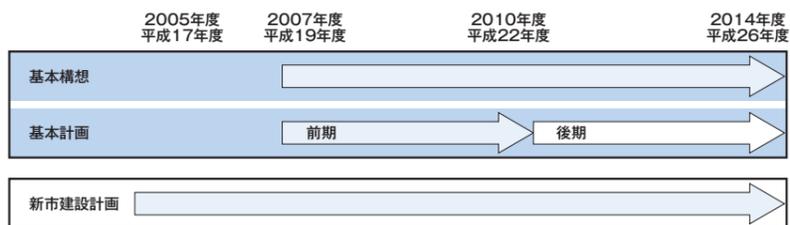
本計画は、基本構想と基本計画の2層で構成します。

基本構想	下関市のまちづくりの基本理念と将来像及び将来像の実現を図るための施策の体系を示すもの
基本計画	基本構想に基づき、各行政分野の具体的施策を示すもの

#### 3 計画の期間

基本構想は、2007年度（平成19年度）から2014年度（平成26年度）を構想期間とします。

基本計画は、2007年度（平成19年度）から2010年度（平成22年度）を計画期間とします。



※総合計画は、地方自治法第2条第4項において「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行なうようにしなければならない。」と規定されています。

### 第2章 計画策定の背景

#### 1 社会経済状況の変化への認識

##### (1) 少子高齢化の進展

わが国は、少子高齢化や人口減少に直面しており、経済・社会の主たる担い手である生産年齢人口の減少、地域活力の低下、社会保障費の増大などが懸念されています。

こうしたなか、今後は、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが重要と考えられます。また一方で、高齢化は、健康で社会参加の意欲も高い人々の増加という側面を有しており、豊かさやゆとりを実感でき、誇りをもって暮らすことのできる地域づくりが求められます。

##### (2) 価値観・ライフスタイルの多様化

人々の価値観は、生産重視から生活重視、物の豊かさから心の豊かさへと変化してきています。また、人々のライフスタイルも労働時間の短縮や高齢社会における定年退職後の自由時間の増加、核家族化、女性の社会進出などにより、大きく変化し、多様化しています。

こうしたなか、地域特性や多様な価値観・ライフスタイルに応じたまちづくりを進めるには、まちづくりに市民が主体的に参加し、市民と行政が協働で地域の課題に対応していくことが求められます。

##### (3) 暮らしの安全・安心の確保

近年、地震や台風など自然災害に対する安全性への関心が高まっています。また、交通事故や身近な地域での犯罪、特に子どもを狙った犯罪や高齢者に対する詐欺事件も多発し、さらには、環境ホルモンやアスベストなどによる健康被害、食品の安全性に対する不安、インターネットの利用による消費者被害、建築や住宅の安全性に対する不安など、市民の暮らしを脅かす新しい問題が顕在化してきています。

こうしたなか、市民一人ひとりの安全への意識の高揚はもとより、地域の安全は地域全体で守る、という原点に改めて立ち、安全と安心が確保された地域づくりを進めていくことが求められます。

##### (4) 循環型社会への転換

世界各国における社会経済活動の拡大やエネルギーの大量消費などにより、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨など地球規模の環境問題が深刻化してきています。

こうしたなか、市民一人ひとりが意識改革を図り、資源やエネルギーの有効活用や環境にやさしいライフスタイルへの転換などを進め、持続可能な循環型社会を形成していく必要があります。

また、自然環境の重要性に対する認識の高まりを受け、日常生活や活発な生産活動を行いながらも、環境に対する影響を最小限に止める方策を講じるなど、地域のかけがえのない自然環境を保全し、次世代に引き継いでいくことが求められます。

##### (5) 高度情報化社会の進展

インターネットや携帯電話の普及に代表される高度情報通信技術が飛躍的な発展を遂げ、情報の重要性がますます大きなものとなっています。

こうしたなか、情報化は事業者の活動のあり方を変えるだけでなく、人と人とのつながりのあり方など、市民生活の面でも変化をもたらしており、今後は、情報通信基盤の整備とともに、これを活用した利便性の高い行政サービスの提供を図っていくことが求められます。

##### (6) 産業・雇用構造の変化

わが国の工業は、東アジアの急激な経済成長と経済活動のグローバル化などによる製造業の海外進出が続く一方、高付加価値化に向けた積極的な国内投資が行われるなど、大きな転換期に直面しています。商業活動は、規制緩和や価格競争の激化、ライフスタイルの変化などにより厳しい競争にさらされています。

また、農林水産業は、担い手の高齢化が進む中、生産が停滞していますが、一方で食物の安全性に対する関心の高まりとともに、農地や山林が有する多面的機能が見直されています。

こうしたなか、地域の特性に応じた新産業の育成とともに、既存産業が培ってきた技術力を活かした産業の活性化を図ることが求められています。

また、雇用面では、高齢化の進行や価値観の多様化などに応じ、地域社会で安心して働きつづけることのできる雇用の場の創出が求められます。

##### (7) 広域交流の活発化

交通体系や情報通信網の整備、自由時間の増大にともない、経済活動や生活活動が広域化し、圏域や県境を越えた人・物・情報の交流が活発化するとともに、地域間の連携・交流を促進しようという取り組みが盛んになってきています。

こうしたなか、都市機能の集積した活力と賑わいのある地域と、豊かな自然に恵まれた美しく、やすらぎある地域が相互に連携・補完しあうことで、圏域としての自立を図るとともに、複数の圏域が連携することによりサービスの高度化や暮らしの選択肢の拡大などを実現していくことが求められます。

## 2 下関市のまちづくりの課題

### (1) 自然環境の保全と活用

本市は、関門海峡や美しく長い山陰海岸など魅力的な景観と豊かな自然環境に恵まれた地域です。今後ともこれらの貴重で特色ある地域資源を積極的に保全していくとともに、観光振興や地域学習など、多方面での活用を図っていく必要があります。

### (2) 都市基盤の整備

地域全体の発展を見据え、便利な暮らし、活発な経済・産業活動の基盤となる都市環境の整備を図っていくとともに、高度情報技術の進展に対応した情報基盤の整備を行っていく必要があります。

### (3) 生活環境の整備

防災体制の強化や上下水道の整備など、生活基盤の充実・強化を図り、安心で快適に生活できる環境づくりを推進していく必要があります。また、地球環境の保全のため、廃棄物の適切な処理やリサイクルの推進により、循環型社会の形成に取り組む必要があります。

### (4) 保健・医療と福祉の充実

今後、人口の減少とともに、少子高齢化の一層の進行が予想されています。こうした人口構造の変化

に対応し、高齢者や障害者を含めすべての市民が安心して生活でき、子どもを生き生きと育てられる環境づくりをより一層進めていく必要があります。

#### (5) 教育・文化の振興

社会情勢が大きく変化する中で、市民が生涯学習を通じいつでも、どこでも自由に学び、文化活動やまちづくり活動を行うことができる環境を整備することが求められています。また、学校教育においても、学校、家庭、地域社会が連携して教育環境を充実していく必要があります。

#### (6) 産業の振興

既存産業の維持・発展とともに、地域の特色を活かした新たな産業の創出により、産業の活性化を図り、地域の雇用の場を確保していく必要があります。また、北九州・東アジアなどとの連携・交流を促進し、活力ある地域経済としていく必要があります。

#### (7) 連携・交流の促進

本市ではそれぞれの地域で特色ある歴史・文化を培ってきています。こうした地域の歴史・文化を引き継ぎ継承していくとともに、広域的な連携と交流による積極的な活用を図っていき、豊かな市民生活と新たな交流観光の創造につなげていく必要があります。

#### (8) 開かれたまちづくりの推進

本市のまちづくりに対しては、市民や企業などの参画をより一層推進するとともに、市民と企業、行政の相互理解、パートナーシップを発展させることが必要です。そのためには、積極的に相互に情報の公開・提供を進める必要があります。

#### (9) 行財政運営の効率化

非常に厳しい財政状況のなか、複雑・多様化する市民ニーズに対応していくため、行財政基盤の強化を図っていく必要があります。また、市民ニーズに合致した行政サービスを提供していく必要があります。

## 2. 基本構想

### 第1章 まちづくりの基本理念

まちづくりを担うのは人であり、人と人、人と自然、人と歴史のつながりを大切にしつつ、新たなまちを共に創りあげていくことを、本市のまちづくりの理念として、次に定めます。

#### 自然と歴史と人が織りなす交流都市

～自然と人、人と人、ふれあいで輝く共創のまちづくりを目指して～

#### 「元気」

すべての人が健康で元気に暮らせるまちづくりを目指します。

#### 「つながり」

自然と人、人と人の新たなふれあいが原動力となるまちづくりを目指します。

#### 「共創」(キョウソウ：共に創りあう)

地域相互の緊張感をエネルギーに、交流力と内発力が高まる共創のまちづくりを目指します。

### 第2章 まちづくりの将来像

「まちづくりの基本理念」を踏まえ、目指すべき7つの将来像を設定します。

#### 1 情報があふれ、活動しやすい便利なまち(都市基盤)

市域全体を見据えた快適で利便性の高い都市づくりが求められます。このため、本市が有する既存の都市機能集積を活かしつつ、都市構造の再編成を行い、地域間の適切な機能分担と、それらの連携による一体的かつ計画的な都市づくりを推進します。

また、広域交通網の整備や公共交通機関の充実強化など、他地域から本市へのアクセス及び市内の連絡など、総合的な視点に立った交通体系の整備及び交通需要の適切な管理による円滑な移動手段の確保を推進します。

さらに、行政区域の広がりに応じ、道路や公園などの適切な整備による計画的な市街地の形成を進めるほか、情報通信ネットワークの整備をはじめ、観光・コンベンション機能の充実・高度化を図ることにより、情報があふれ、活動しやすい便利なまちの実現を目指します。

#### 2 人と自然にやさしく安全で安心して暮らせるまち(自然環境・生活環境)

本市は、関門海峡や美しく長い山陰海岸、緑豊かな山林、ホタルの生息する河川など、特色ある自然環境・景観に恵まれており、これらの適切な保全と活用を図ります。

また、良好な住環境の形成に向けて、上下水道や地域・生活関連施設の整備、良質な住宅供給の促進などにより、市民生活の快適性の確保を図ります。これらは、環境に配慮した生活や産業活動を行うことによって確保されるものであるため、ごみ処理やリサイクルなど、地域のコミュニティを基本に資源を大切に作る取り組みを進めます。

さらに、自然災害や火災、事故、犯罪などの予防対策と迅速・的確な対応に取り組むことにより、人と自然にやさしく安全で安心して暮らせるまちの実現を目指します。

#### 3 将来に希望をもって意欲的に働ける自立したまち(産業振興)

本市の産業は、個性ある歴史・文化と豊かな自然環境を背景に、農林水産業、造船業、商業、貿易などを軸として展開し、今日ではサービス業など第三次産業のウエイトを高めながら発展してきました。

今後は、農林水産業については、生産振興だけでなく、地域の歴史や文化に彩られた観光資源、また生涯学習の場としての活用や合併を契機とした都市との交流により振興を図ります。

また、これまで蓄積されてきた高度な技術・知識の活用、異業種交流、産学官連携などを促進し、ベンチャー企業などの育成による新たな産業の創出と既存産業の再生による地域づくりを進めます。

さらに、地域住民が主体となるコミュニティビジネスを促進し、地域問題へのきめ細かい対応や雇用の創出などを図り、将来に希望をもって意欲的に働ける自立したまちの実現を目指します。

#### 4 観光や交流から生まれる多彩で魅力あるまち(観光振興)

製造業などの停滞や公共事業の縮小が予想される中、地域の新たな活気を生み出すためには、観光な

どによる交流人口を増加させる必要があります。

まず、住みよい魅力あるまちづくりを進めるために拠点施設の整備に努め、地域の自主的な交流活動を促進するとともに、地域ごとの施設どうしがネットワークにより連携し、一体となったまちづくりに取り組みます。

そして、本市は、海、山、温泉、史跡、フクなどの豊かな観光資源を有しており、これら地域固有の自然や文化などを活用し、まちづくりや農林水産業との連携によるグリーン・ブルーツーリズム、エコツーリズムなどの体験型観光などの創出を促進します。

また、地域内の観光交流はもとより、北九州市や県内他地域などとの連携、さらには広く国際的な観光客の誘致にも努めます。

さらに、集客産業の関係者だけではなく、市民一人ひとりが、温かいおもてなしによって訪問者を迎え入れることなど、地域のホスピタリティの醸成に努め、観光や交流から生まれる多彩で魅力あるまちの実現を目指します。

### 5 誰もが健康で、ふれあいを大切にされた温かみのあるまち（保健・医療・福祉）

少子高齢化が進むなか、日常生活を営むうえで世代や性別を超えた人と人とのつながりが社会、地域を支える大きな力となります。

子どもを安心して生み、育てることができ、障害者や高齢者を含めすべての市民が健康で、地域社会で安心して生きがいのある生活が送れるように施設と環境の整備を進めるとともに自立の支援を促進します。

また、自立と相互扶助社会の実現に向けて、行政、地域組織、社会福祉団体及び個人がともに連携を深め、地域福祉活動の促進を支援します。

そして、地域医療のシステム化を進め、地域間での格差のない医療体制、救急医療の整備に努めます。高齢者をはじめ多くの市民が安心して保健・医療・福祉を受けるために、国民健康保険や介護保険などの安定的な運営の維持に努めます。

### 6 地域の特色を活かしたまなびのまち（教育・文化）

市民の生きがいの向上と、地域の歴史や文化に対する理解の醸成、地域間交流の促進などに向けて、生涯学習活動に係る拠点施設の整備とその情報ネットワーク化及び市民活動の支援を図ります。

学校教育については、家庭や地域との連携を一層深め、総合的な学習の視点に立った、地域への愛情と生きる力を育む教育を推進することにより、地域に開かれた学校づくりに努めます。

また、心身ともにバランスのとれた個性的でたくましい子どもを育てていくため、家庭と学校と地域が一体となった青少年の教育・文化・スポーツ活動を推進します。

さらに、本市が今まで育ててきた東アジアをはじめとする国際交流を一層推進し、学校教育、社会教育などを通じた国際性豊かな人材の育成及び国際レベルのスポーツ・文化活動などによる国際交流事業を促進します。

これらの環境整備を推進し、地域が培ってきた歴史・文化を活用し、地域の特色を活かしたまなびのまちの実現を目指します。

### 7 市民も企業も行政もみんなで担える元気なまち（協働のまちづくり）

地域が自らの判断で個性的なまちづくりを進めるため、まちづくりへの市民の参画意識の高揚を図りながら、市民参画とボランティア活動などの市民活動を促進するとともに、行政情報の公開を推進し、市民、企業、行政が協働して取り組むパートナーシップのまちづくりを進めます。

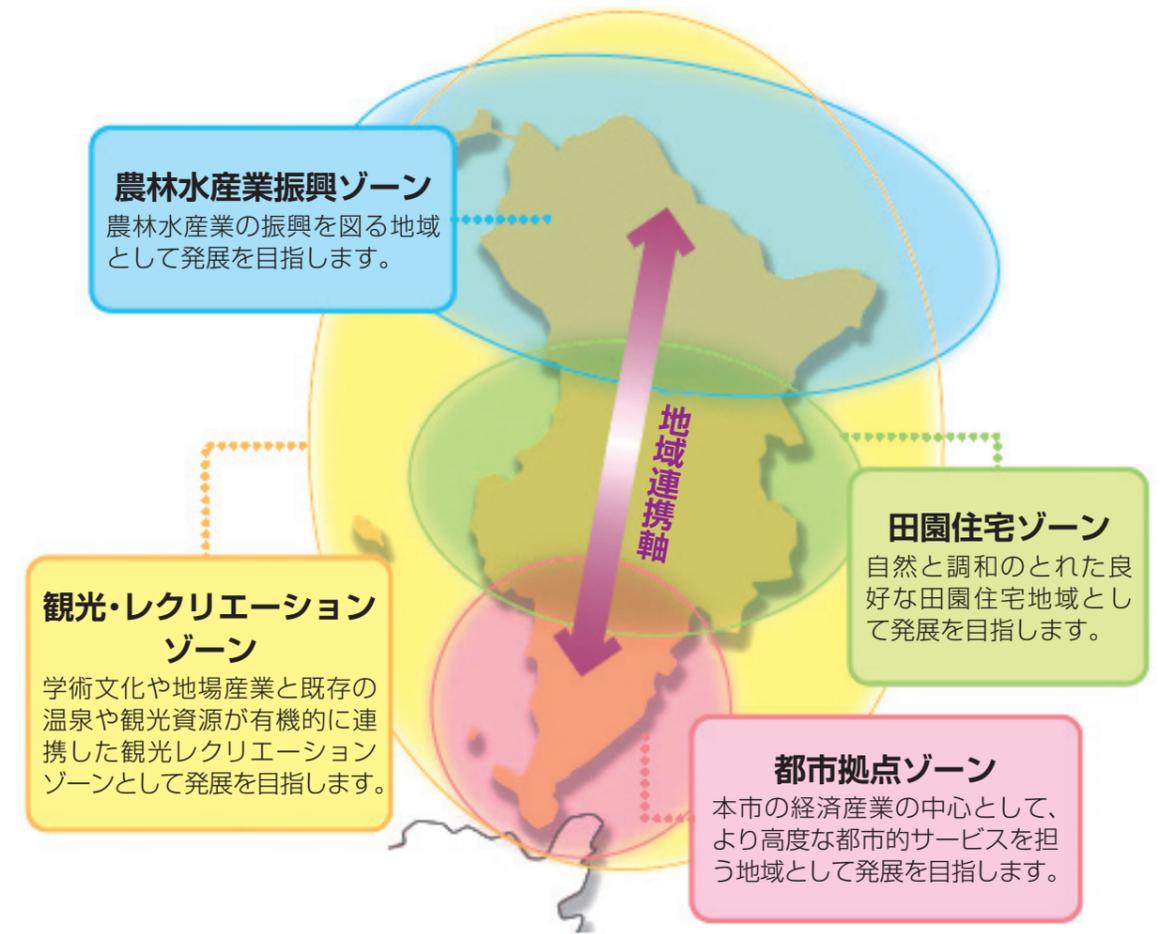
また、住みよい魅力ある地域づくりを進めるために、まちづくりに関わる情報・交流機能の強化に努め、地域の自主的なコミュニティ活動を促進するとともに、情報ネットワークなどにより地域間の連携を促進し、一体的なまちづくりに取り組みます。

一方、将来的に大きな歳入の増加が見込めない中で、多様化する種々の行政需要にきめ細かく対応していくため、行政事務の効率化・簡素化、情報技術の活用などにより一層の効率的な行財政運営を行います。

## 第3章 地域別まちづくりの方向

地域の特性や既存施設の立地状況などを踏まえ、軸及びゾーンなどを設定し、本市における地域別整備の方向性を示します。

### (1) ゾーンの形成



### (2) 軸の形成

#### 地域連携軸

本市の連携機能を担う道路、鉄道などの交通網や情報ネットワークを地域連携軸として位置付け、その機能維持・強化を図ります。

## 第4章 主要指標の見通し

### (1) 人口

本市の人口は、平成17年において290,693人（国勢調査平成17年10月1日）であり、今後も減少傾向が続くものと予想されます。しかし、本計画の基本理念である「自然と歴史と人が織りなす交流都市」の実現を目指し、平成27年の目標人口を300,000人として、人口の定着を促す施策の展開を図ります。

### (2) 世帯数

世帯数については、その数自体は増加するものの、一世帯当たりの人員が減少する核家族化が引き続き進行することが予想されます。

一世帯当たりの人員は、過去の推移から平成27年には2.22人/世帯と予想されるため、平成27年の世帯数を約13万5千世帯と想定します。

### (3) 就業人口

本市の就業人口については、人口の推移と同様に減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くことが予想されます。

しかしながら、産業振興や就業機会の確保に努め、現状（平成12年）の就業率（総人口に対する就業人口の割合：47.6%）を維持するものとし、平成27年の就業人口の目標を約14万3千人と想定します。

### (4) 交流人口（観光客数）

交流人口（観光客数）は、増減を繰り返してきましたが、近年は順調な増加傾向にあります。

本市では、より一層の広域観光交流の促進を図り、過去において最高の観光客数を示した平成3年の5,508千人を超える交流人口を確保することを目標として、平成27年の交流人口を約5,600千人と想定します。

## 第5章 施策体系

「まちづくりの基本理念」、「まちづくりの将来像」、「地域別まちづくりの方向」に基づき、本市が取り組む施策体系を次の様に定めます。

情報があふれ、活動しやすい 便利なまち（都市基盤）	(1) 道路の整備 (2) 公共交通の整備 (3) 市街地の整備 (4) 公園・緑地の整備 (5) 情報・通信の整備 (6) 港湾の整備
人と自然にやさしく安全で安心して 暮らせるまち（自然環境・生活環境）	(1) 自然環境の保全 (2) 河川・海岸環境の整備 (3) 森林の維持と活用 (4) 上水道の整備 (5) 下水道の整備 (6) 住環境の整備 (7) 衛生環境の整備 (8) 地域・生活関連施設の整備 (9) 生活安全の推進
将来に希望をもって意欲的に働ける 自立したまち（産業振興）	(1) 農林水産業の振興 (2) 商工業の振興 (3) 就業支援策の強化 (4) 貿易の振興
観光や交流から生まれる 多彩で魅力あるまち（観光振興）	(1) 観光・レクリエーションの振興 (2) 連携・交流の促進（市内、隣接地域、その他国内） (3) 国際交流の促進
誰もが健康で、ふれあいを大切にした 温かみのあるまち（保健・医療・福祉）	(1) 保健・医療の充実 (2) 国民健康保険事業の充実 (3) 地域福祉の充実 (4) 高齢者福祉の充実 (5) 障害者福祉の充実 (6) 児童福祉の充実 (7) 母子・父子福祉の充実 (8) 低所得者福祉の充実 (9) 介護保険事業の充実
地域の特色を活かしたまなびのまち （教育・文化）	(1) 生涯学習の推進 (2) 学校教育の充実 (3) 文化・スポーツの振興 (4) 国際化への対応
市民も企業も行政もみんなで担える 元気なまち（協働のまちづくり）	(1) 開かれた行政への取組 (2) 市民活動支援の推進 (3) 行政機能の充実及び行財政運営の効率化 (4) 人権教育・啓発活動の充実 (5) 男女共同参画の推進

## Ⅱ. 後期基本計画策定について

Shimonoseki City Master Plan

### 1. 策定作業の進め方

#### (1) 市職員による総合計画策定委員会を設置

関係部局長で構成される、総合計画策定委員会を設置し、市民アンケート等を通じて、市民ニーズや地区別の問題点の把握に努めた上で、後期基本計画原案の作成作業を行いました。

#### (2) 基礎資料の整理

各種統計データ等に基づき、人口・産業等の動向に関する基礎資料を整理しました。

#### (3) 市民意見の反映

市民アンケート調査（市内各地区別に100件を無作為抽出、市全体で2,000件）、市民意見募集（各総合支所、各支所にアンケート設置）、ワークショップ（各総合支所4か所、各支所12か所、旧本庁管内4か所）、パブリックコメントの他、タウンミーティング等を通じて、市民意見の反映に努めました。

#### (4) 総合計画審議会における検討

下関市総合計画審議会条例に基づき総合計画審議会を設置し、市長の諮問に応じて、総合計画に関し必要な事項を調査及び審議しました。

#### (5) 市議会への報告

計画作成の進捗に応じて、中間報告（9月）、最終報告（12月）を行いました。

### 2. 策定経緯

#### (1) 時系列での動き

平成22年1月	総合計画策定委員会、総合計画審議会、市民アンケート、市民意見募集
平成22年2月	地区別ワークショップ
平成22年3月	総合計画策定委員会、総合計画審議会
平成22年5月	市民会議
平成22年6月	市民会議
平成22年7月	総合計画策定委員会、総合計画審議会
平成22年8月	総合計画策定委員会、総合計画審議会
平成22年9月	市議会中間報告
平成22年10月	総合計画策定委員会、総合計画審議会、パブリックコメント
平成22年11月	総合計画策定委員会、総合計画審議会、答申、後期基本計画市長決裁（11/30）
平成22年12月	市議会報告

#### (2) 市民意見募集結果

実施時期	平成22年1月4日～31日
意見応募状況	意見応募者数10名

#### (3) パブリックコメント結果

実施時期	平成22年10月4日～31日
意見応募状況	意見応募者数1名、意見件数4件（※うち計画以外の意見数1件）

策定経緯等の詳細は、下関市総合政策部企画課のホームページをご覧ください。  
[\(http://www2.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/\)](http://www2.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/)

⇒

## Ⅲ. 下関市総合計画審議会

Shimonoseki City Master Plan

### 1. 条例

下関市総合計画審議会条例

平成17年2月13日  
 条例第15号

(設置)

第1条 市長の諮問に応じて、下関市総合計画に関し、必要な事項を調査及び審議するため、下関市総合計画審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 審議会は、委員60人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が任命又は委嘱する。

- (1)市教育委員会委員
- (2)市農業委員会委員
- (3)公共的団体の役員又は職員
- (4)学識経験者
- (5)関係行政機関の職員
- (6)公募に応募した市民

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、諮問に係る答申を終了する時までとする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

2 会議の議長は、会長をもって充てる。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会)

第6条 審議会は、特別に調査審議する必要があると認めるときは、専門部会を設置することができる。

2 専門部会に属すべき委員は、会長が指名する。

3 専門部会に部会長を置き、専門部会に属する委員の互選によりこれを定める。

4 専門部会長は、専門部会の事務を掌理する。

(意見の聴取等)

第7条 審議会は、必要があると認めるときは、市の関係機関の長に対して、資料の提出、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、総合政策部企画課において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

\*下関市総合計画審議会は、平成22年4月1日より下関市附属機関設置条例により設置されています。

## 2. 名簿

平成22年11月22日現在委員（敬称略）

条例上の区分	所属団体	役職	氏名	職位	
市教育委員会委員	下関市教育委員会		野口 裕子	教育委員	
市農業委員会委員	下関市農業委員会		吉本 知則	会長	
公共的団体の役員又は職員	(財)下関21世紀協会	副会長	富永 洋一	理事長	
	(社)下関青年会議所		伊藤 雅彦	専務理事	
	下関市女性団体連絡協議会		田中 クゲヨ	会長	
	菊川町女性団体連絡協議会		林 幸子	会長	
	豊田町女性団体連絡協議会		磯部 恵美子	理事	
	豊浦町女性団体連絡協議会		中野 千枝美	会長	
	豊北町女性団体連絡協議会		山戸 ミエ子	会長	
	下関市連合婦人会		林 登季子	会長	
	下関市連合自治会		中島 弘	副会長	
	(社)下関市医師会		木下 毅	前会長	
	(社)下関市歯科医師会		平原 孝昭	会長	
	(社)下関市薬剤師会		生田 敏	会長	
	(社)下関市社会福祉協議会		濱本 笙子	会長	
	下関市老人クラブ連合会		西本 純雄	会長	
	下関市身体障害者団体連合会		金原 洋治	理事長	
	下関市保育連盟		齋藤 孝子	理事	
	(社)下関水産振興協会		木原 實	会長	
	下関商工会議所		片野 静次	地域開発委員長	
	下関市商工会		梅田 憲二	事務局長	
	下関港湾協会		米田 英治	会長	
	山口県漁業協同組合		濱本 幾男	理事	
	(社)下関観光コンベンション協会		萩原 利生	副会長	
	下関農業協同組合		村上 達己	代表理事常務理事	
	日本貿易振興機構山口貿易情報センター		井手 謙太郎	所長	
	下関市文化協会		五十嵐 美紀子	副会長	
	下関市PTA 連合会		石井 今日子	副会長	
	下関市体育協会		水上 修治	副会長	
	菊川町区域地域審議会		金田 仁司	会長	
	豊田町区域地域審議会		米村 仁治	会長	
	豊浦町区域地域審議会		古田 昭春	会長	
豊北町区域地域審議会		木本 明	会長		
学識経験者	下関市立大学	会長	吉津 直樹	教授	
	東亜大学		中野 昭夫	教授	
	水産大学校		淀江 哲也	理事	
	梅光学院大学		樋口 紀子	教授	
	下関短期大学		河野 光子	学科長	
	(株)山口銀行		西原 克彦	専務取締役	
	西中国信用金庫		白川 昭則	専務理事	
	連合山口下関地域協議会		清水 英治	議長	
	下関地域労働組合総連合		熊野 譲	事務局長	
	日本銀行下関支店		福山 泰弘	前総務課長	
	西日本旅客鉄道(株)広島支社下関地域鉄道部		今津 時宏	部長	
	サンデン交通(株)		秋枝 晴実	総務部次長	
	(株)みなと山口合同新聞社		久岡 照代	報道部長	
	関係行政機関の職員	国土交通省九州地方整備局港湾空港部		麻山 健太郎	下関港湾事務所長
		山口県地域振興部下関県民局		土井 達夫	下関県民局長
	公募に応募した市民			中嶋 貴昭	
				井上 親彦	
			柴田 俊彦		
			藤村 整市		
			吉村 和		
			三澤 久嗣		
			藤澤 麻里子		
			上野 あや子		
		鳥居 紀子			
		中村 洋子			

委員の交代

所属団体	当初委員	交代年月日	交代後委員
下関市連合自治会	永尾 遼	平成22年7月12日	中島 弘
山口県地域振興部下関県民局	松本 弘	平成22年7月12日	土井 達夫

## 3. 諮問

下企第69号  
平成22年1月27日

下関市総合計画審議会会長 様

下関市長 中尾 友昭

下関市総合計画後期基本計画について（諮問）

下関市総合計画審議会条例（平成17年条例第15号）第1条に基づき、下関市総合計画後期基本計画について貴審議会の意見を求めます。

## 4. 答申

平成22年11月22日

下関市長 中尾 友昭 様

下関市総合計画審議会  
会長 吉津 直樹

下関市総合計画後期基本計画について（答申）

平成22年1月27日付け下企第69号にて諮問のありました下関市総合計画後期基本計画について審議するため、3つの部会を設置し、それぞれの立場や経験を基に慎重に審議し、検討を重ねてきました。

当審議会は、貴職から示された下関市総合計画後期基本計画原案を、概ね妥当なものとして認め、これに審議内容を整理して、修正を加えて補完し、別添のとおり答申いたします。

市長におかれましては、この答申を尊重して下関市総合計画後期基本計画を策定するとともに、下記事項に十分配慮して計画の実現に努められるよう要望いたします。

なお、審議の過程で出された提言、意見等については、今後策定される諸計画や行政運営の中で、十分活用されるよう希望いたします。

記

- 1 広域化した下関市を活性化するため、国内外の広域連携を進めると共に、市内の各地域の個性が発揮されるよう施策に配慮すること。
- 2 少子高齢化の進行に配慮し、日常生活レベルでのコミュニティ機能の充実や各種基盤整備に配慮すること。
- 3 市民が郷土を愛し、まちづくりに参画するためには情報の共有が重要であることから、市政に関わる様々な情報を積極的に公開するとともにその環境整備に努めること。
- 4 市民の意見が市政に反映されるように市民の情報発信の場を増やすと共に、市民がまちづくりに積極的に関与できるようなしくみづくりを検討すること。
- 5 まちづくりの目標となる目標水準、指標をできるだけ具体的に示し、その実現に鋭意取り組むこと。
- 6 審議会における審議経過を可能なかぎり市民に公開すること。

# IV. 市民アンケート調査の概要

Shimonoseki City Master Plan

## 1. 調査目的

下関市総合計画後期基本計画を策定するにあたり、市民の下関市に対するイメージや、市政に対するニーズ等を把握することを目的に、以下のアンケート調査を実施しました。

## 2. 調査方法及び回答状況

下関市内に居住する20才以上の市民、2,000人を住民基本台帳より無作為に抽出し、郵送配布・回収により無記名のアンケートを実施しました。

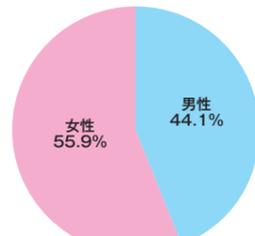
調査時期は、平成22年1月12日（火）～26日（火）であり、配布数2,000人に対して、862人の回収（回収率43.1%）を得ました。

## 3. 回答者の属性

### (1) 性別 (単位：人、%)

		実数	割合
1	男性	380	44.1
2	女性	482	55.9
	合計	862	100.0

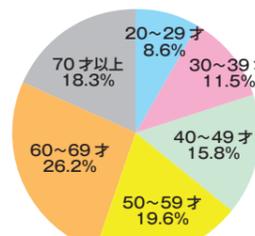
### 性別



### (2) 年齢 (単位：人、%)

		実数	割合
1	20～29才	74	8.6
2	30～39才	99	11.5
3	40～49才	136	15.8
4	50～59才	169	19.6
5	60～69才	226	26.2
6	70才以上	158	18.3
	合計	862	100.0

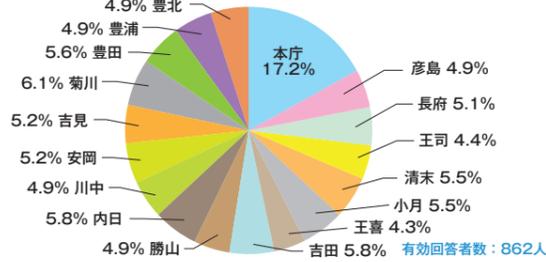
### 年齢



### (3) 住所（支所別） (単位：人、%)

		実数	割合
1	本庁	148	17.2
2	彦島	42	4.9
3	長府	44	5.1
4	王司	38	4.4
5	清末	47	5.5
6	小月	47	5.5
7	王喜	37	4.3
8	吉田	50	5.8
9	勝山	42	4.9
10	内日	50	5.8
11	川中	42	4.9
12	安岡	45	5.2
13	吉見	45	5.2
14	菊川	53	6.1
15	豊田	48	5.6
16	豊浦	42	4.9
17	豊北	42	4.9
	合計	862	100.0

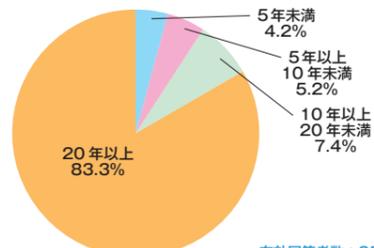
### 住所（支所別）



### (4) 下関市での居住年数 (単位：人、%)

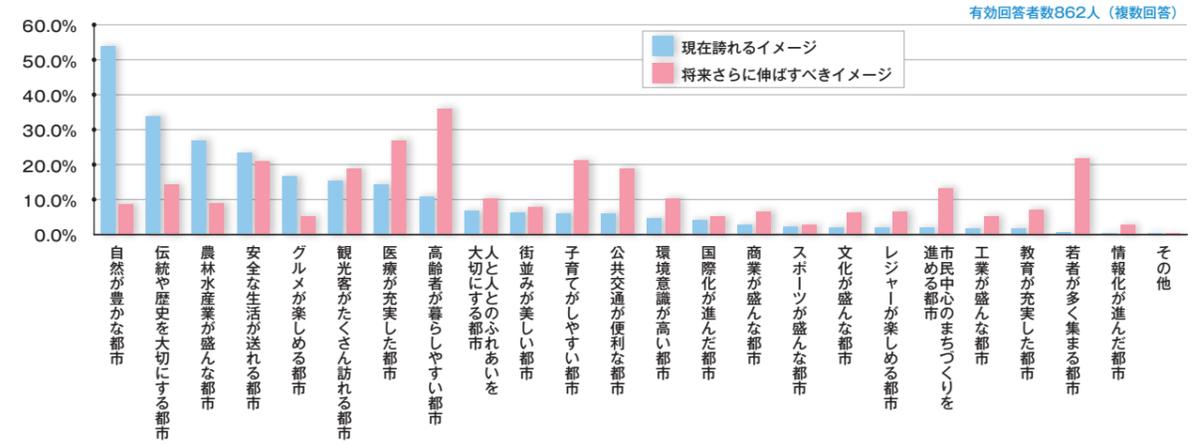
		実数	割合
1	5年未満	36	4.2
2	5年以上10年未満	44	5.2
3	10年以上20年未満	63	7.4
4	20年以上	711	83.3
	不明	8	
	全体	854	100.0

### 下関での居住年数



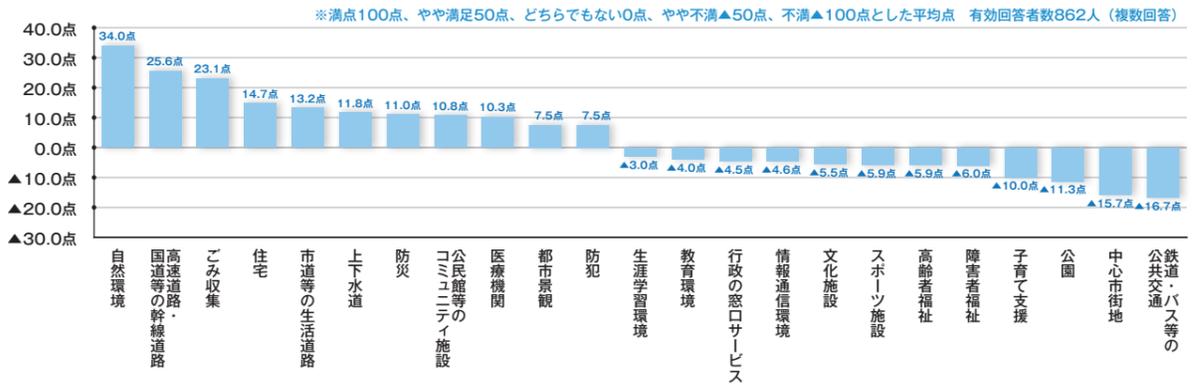
## 4. 回答結果

### (1) 下関市の都市イメージ

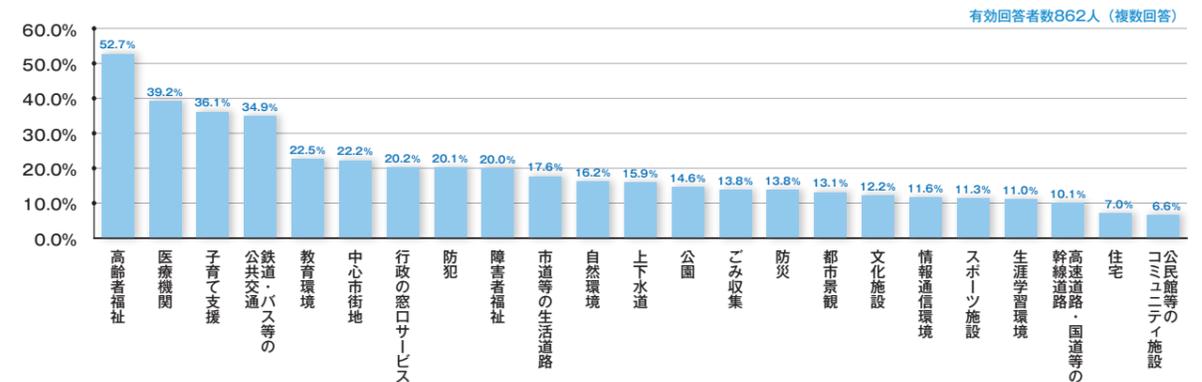


### (2) 生活項目の満足度と重要度

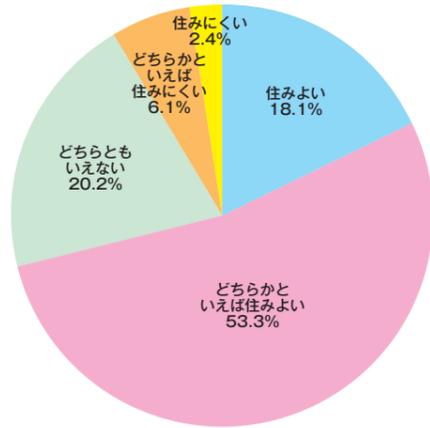
#### ① 満足度



#### ② 重要だと思う項目

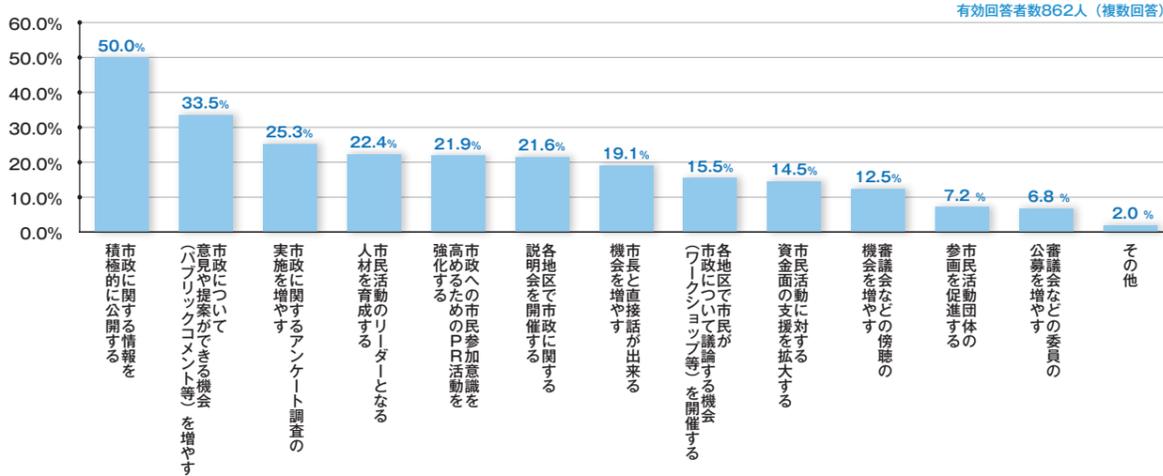


(3) 下関市が住みよいと感じるか



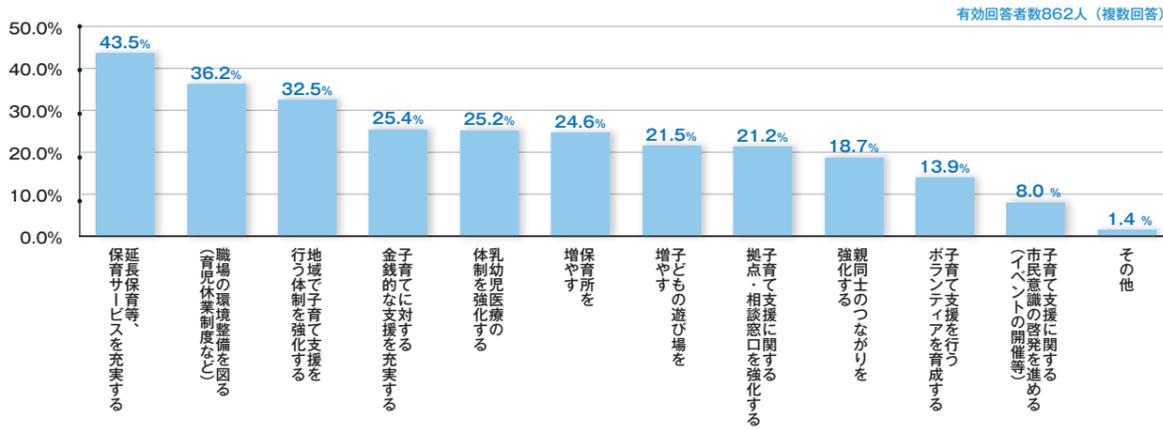
有効回答者数：841人

(4) 市政への市民参加を進めるにはどうすれば良いか



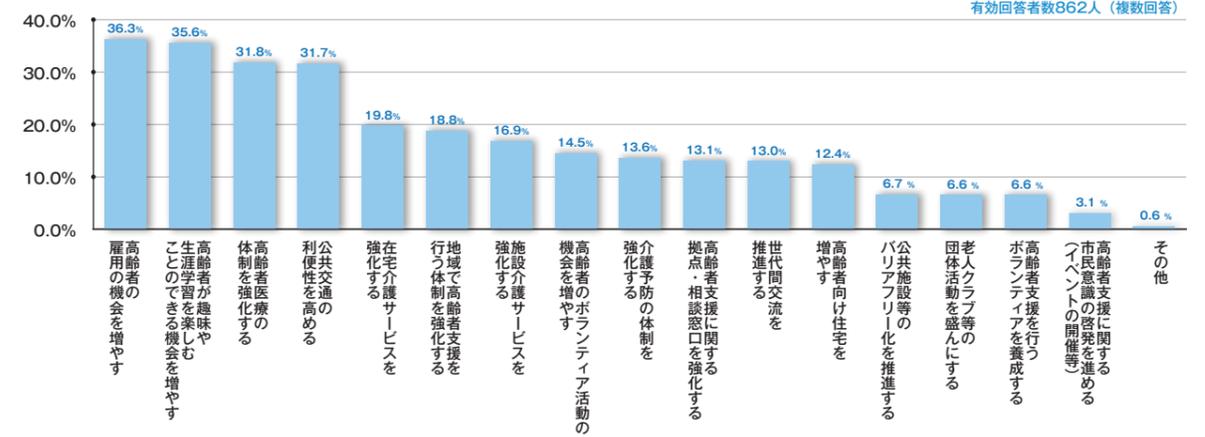
有効回答者数862人（複数回答）

(5) 下関市で安心して子育てができるようになるには、どうすれば良いか



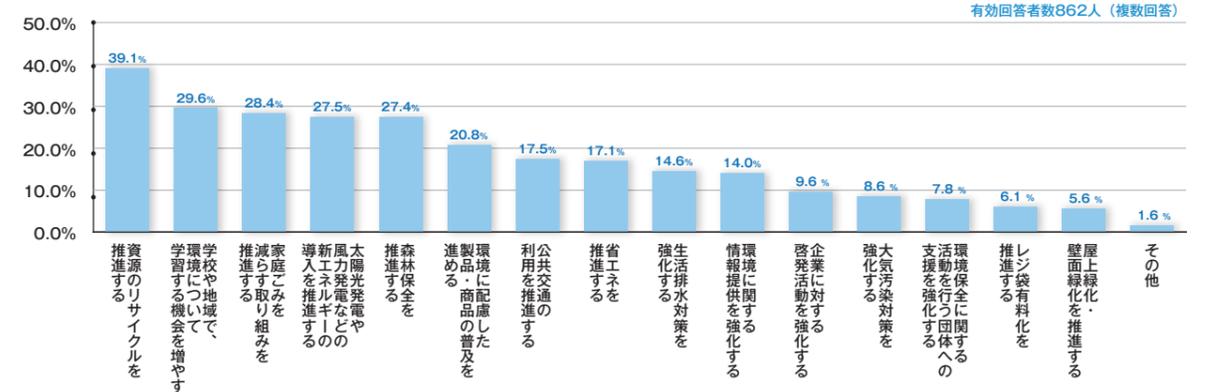
有効回答者数862人（複数回答）

(6) 下関市で高齢者が健康でいきいきと暮らせるようにするには、どうすれば良いか



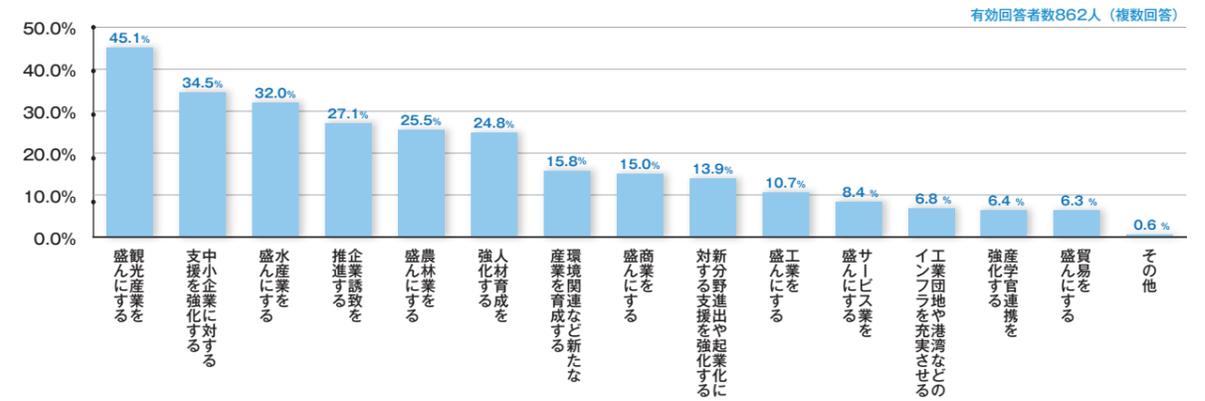
有効回答者数862人（複数回答）

(7) 下関市の環境対策として、今後どのような取り組みが重要か



有効回答者数862人（複数回答）

(8) 下関市の産業を活性化するには、今後どのような取り組みが重要か



有効回答者数862人（複数回答）

# V. 地区別ワークショップの概要

## 1. 実施概要

### (1) 目的

下関市総合計画後期基本計画策定に際し、市民から直接意見を聞くことにより、地区毎の特徴や問題点、要望等を広範かつ具体的に把握する目的で実施したものである。

### (2) 方法

ワークショップについては、平成22年2月9日（火）～23日（火）まで、旧下関市の本庁地区4か所・支所単位で12か所、及び旧豊浦郡4町（4か所）の計20か所で実施した。

手法としては、参加者（概ね15～20名程度）を2つもしくは3つの班に分け、各人が地区の特徴・問題点や要望・改善策等をポストイット（付箋）に記入後模造紙に貼付し、各班において、それらの意見をテーマ別に分類するという形をとった。その際、特徴・問題点については分野別（6つ程度）に、また要望・改善策等に関しては、総合計画審議会の部会として設置される「夢と目標」「元気・活性化」「安心・安全満足度」という3つのテーマ別に区分した。

#### <ワークショップのテーマについて>

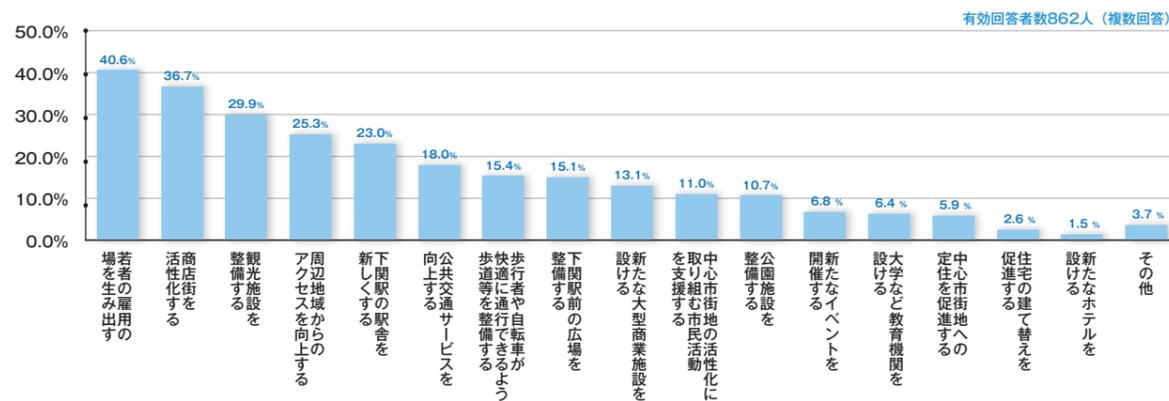
- テーマ1 「夢と目標」**  
4年間で夢や目標を持って取り組む施策やプロジェクト及び各種事業の達成時のあるべき姿について提案するもの
- テーマ2 「元気・活性化」**  
4年間で、地域や個別施策等に対し、元気や活性化が図れるよう各分野の事業のあり方や進め方、地域づくりの方向について提案するもの
- テーマ3 「安心・安全満足度」**  
暮らしの生活環境や都市環境、市民サービスや福祉等、市民の安心して暮らせる生活の満足度を高めるため、他都市との比較や各分野の現況の意見を基に、今後の各事業の整備計画等を提案するもの。

#### <ワークショップの進め方>

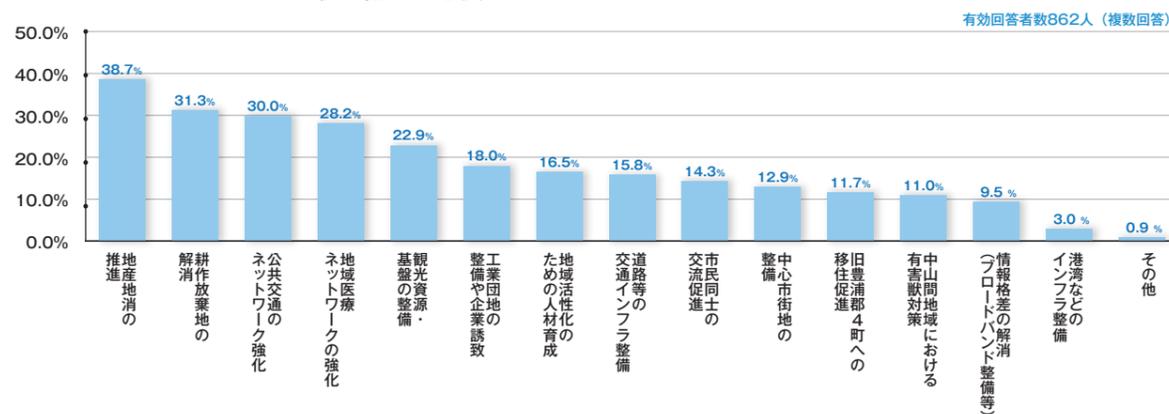
- 受付、班分け、名札づくり
- 挨拶、出席者紹介
- ワークショップとプログラムの説明
- 市政の現状と社会動向について説明
- ～こんな特徴のある地区です～
  - ①自己紹介、役割分担
  - ②各自が地区の特徴など意見記入
  - ③意見を6グループに分ける
  - ④グループに対する要望、改善策
  - ⑤要望などテーマ別に分ける
  - ⑥フリートーク
- ～こんな地区にしたい～  
各班意見発表、講評
- 閉会挨拶、解散

	地区・場所	参加人数 (人)	うち女性 (人)
2月9日(火)	豊浦 (川棚公民館)	22	9
	本庁1 (下関商工会議所)	24	10
	長府 (長府公民館)	19	2
2月11日(木)	清末 (清末公民館)	21	14
	王司 (王司公民館)	17	7
	川中 (川中公民館)	16	1
2月13日(土)	内日 (内日公民館)	17	8
	小月 (小月公民館)	17	6
	菊川 (ふれあい会館)	21	7
2月16日(火)	王喜 (王喜公民館)	14	5
	本庁2 (市民活動センター)	10	6
	安岡 (安岡公民館)	15	4
2月18日(木)	吉見 (吉見公民館)	18	7
	彦島 (彦島公民館)	11	1
	本庁3 (勤労福祉会館)	18	5
2月20日(土)	豊田 (豊田総合支所)	19	4
	勝山 (勝山公民館)	22	6
	本庁4 (北部公民館)	20	4
2月23日(火)	豊北 (豊北総合支所)	19	5
	吉田 (吉田公民館)	18	1
	延べ参加者数	358	112
	1会場平均	17.9	5.6

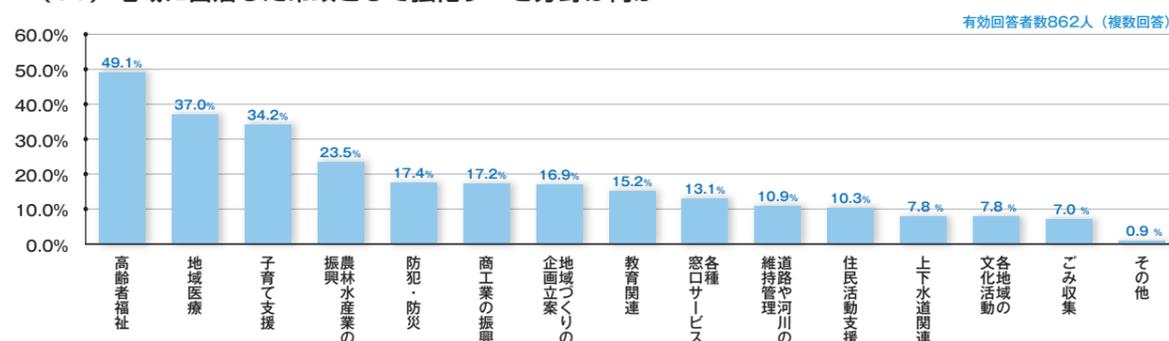
### (9) 下関市の中心市街地をにぎやかにするには、どうすれば良いか



### (10) 旧下関市と旧豊浦郡4町との結び付きを一層強め、住民生活の共生を図り、定住を促進させるためには、どのような取り組みが必要か



### (11) 地域に密着した市政として強化すべき分野は何か



## 2. 結果要旨

### (1) 旧下関市（本庁・彦島）地区

#### ①地区の特徴・問題点

地区の特徴（良い所）としては、本庁地区において、観光資源・施設の多さなど観光分野に関するものや、海峡の景観等の自然環境、さらには道路・公共交通の利便性を指摘する意見が目立った。また、本庁地区・彦島地区共に、全体としての住みよさや住民のまとまりなど、コミュニティに関わる意見も多かった。

一方、問題点（気になる所）については、道路の渋滞など交通に関わる点や、高齢化に伴う自治体活動への影響などコミュニティに関すること、さらには公園等の（公共）施設や人口問題（子供の減少等）といった分野での指摘が多く見受けられた。また、本庁地区では、良い所としての意見が多かった観光分野について、宿泊施設の不足等、様々な問題点が挙げられていた。

主 な 意 見	
地区の特徴 （良い所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設が多い（本庁）</li> <li>・海峡の景観美（本庁）</li> <li>・交通の便が良い（本庁）</li> <li>・新鮮な水産物が食べられる（本庁）</li> <li>・治安が良い。住民同士のコミュニケーションが他地域に比較すると良い為に、意志の統一が取り易い（何をするとにしても）（彦島）</li> </ul>
地区の問題点 （気になる所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路の渋滞が多い（本庁）</li> <li>・関門海峡沿いに折角の景観を高層ビルが悪くしている（本庁）</li> <li>・商店街が閑散としている（本庁）</li> <li>・宿泊施設不足（本庁）</li> <li>・高齢者が増え、自治会の運営が困難になりつつある（彦島）</li> </ul>

#### ②要望・改善策等

地区の要望・改善策等をみると、「夢と目標」に該当するものとしては、新駅設置や新しい道路の整備など、道路・公共交通関連が目立った。また、「元気・活性化」においては、宿泊施設を含む観光面の整備や、商業を中心とする産業の活性化等に関するアイディア・要望が比較的多かった。一方、「安心・安全満足度」では、市道等の道路やバスなどの公共交通をさらに整備してほしいとの意見に加えて、観光面のPRや、商店街をはじめとする産業活性化に関わる内容が特に多く挙げられていた。

テーマ	主 な 内 容
夢と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国一の教育、全国で例のない教育をする（本庁）</li> <li>・特色のある商店街作り（統一テーマをかかげる等）（本庁）</li> <li>・路面電車の復活！（本庁）</li> <li>・山の田駅（新駅建設）（本庁）</li> <li>・彦島一周道路を早期に完成（彦島）</li> </ul>
元気・活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアハウスを沢山つくる（市街地内）（本庁）</li> <li>・食イベントへの積極的な参加（本庁）</li> <li>・あるかぼーと～コンテナヤード～下関駅までつながりを持った整備（本庁）</li> <li>・サティ跡を商業スペースだけでなく学生や若者、子育て中のお母さん、お年寄りの憩いの広場にしてほしい。駐車スペースも（本庁）</li> <li>・島内に総合病院を作りたい（彦島）</li> </ul>
安全・安心満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングとグルメを一体化したまちづくり（本庁）</li> <li>・関門海峡沿いに高層ビルは規制する（本庁）</li> <li>・中心市街地から他地域への交通機関の充実（本庁）</li> <li>・下関駅を中心に旧市内～山の田まで100円バスを運行（本庁）</li> <li>・生活道路（町内の）補修を早くしてほしい（彦島）</li> </ul>

### (2) 旧下関市（本庁・彦島以外：長府・王司・清末・小月・王喜・吉田・川中・安岡・吉見・勝山・内日）地区

#### ①地区の特徴・問題点

地区の特徴（良い所）としては、山や海・川等の自然環境と、住民同士のつながりなどコミュニティに関わる意見が、共に多数を占めた。この他には、（公共）施設や道路・公共交通に関する内容も多かったほか、地区の歴史に対する高評価も目立った。

一方、問題点（気になる所）については、交通渋滞等の道路関連や、バスなど公共交通の問題、さらには公民館など（公共）施設に関する指摘が多く見受けられた。また、自然環境（ゴミ問題など）やコミュニティ（自治会活動等）、人口問題（子供の減少等）といった分野で気になる所も、多く挙げられていた。

主 な 意 見	
地区の特徴 （良い所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な建物が多い（長府）</li> <li>・神田川の菜の花がきれい（王司）</li> <li>・名所旧跡が多く大切にしている（清末）</li> <li>・交通の要衝である（小月）</li> <li>・住民が仲良く協力的である（王喜）</li> <li>・晋作、奇兵隊など幕末維新の史跡（吉田）</li> <li>・大型スーパーなどがあり生活しやすい（川中）</li> <li>・暮らしやすいと思う（安岡）</li> <li>・海・山の自然が豊か（吉見）</li> <li>・公共交通が便利（勝山）</li> <li>・野菜・米がおいしい（内日）</li> </ul>
地区の問題点 （気になる所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道2号線の交通量が多く渋滞する（長府）</li> <li>・高磯交差点の渋滞を解消してほしい（王司）</li> <li>・公民館が手狭（清末）</li> <li>・小月駅前が暗い（小月）</li> <li>・バスが少ない（王喜）</li> <li>・少子化（吉田）</li> <li>・道が便利になり車が増えて子供が危ない（川中）</li> <li>・大きな企業がない（安岡）</li> <li>・国立の施設が2つある（海上自衛隊、水産大学校）のに人口が増えない（吉見）</li> <li>・文化施設がない（勝山）</li> <li>・農業の後継者がいない（内日）</li> </ul>

#### ②要望・改善策等

地区の要望・改善策等をみると、「夢と目標」に該当するものとしては、（公共）施設の整備や自然環境の保護、商工業等の産業活性化に加えて、新駅設置など公共交通関連の内容が目立った。また、「元気・活性化」においては、自治会活動活性化等のコミュニティ関連、農林水産業の振興、道路・公共交通の整備、公民館等の（公共）施設整備等についての意見が多かった。一方、「安心・安全満足度」では、道路や公共交通に関する要望が特に多かった。

テーマ	主 な 内 容
夢と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小月IC～門司ICをただにすると長府印内の渋滞は緩和する（長府）</li> <li>・「王司駅」の実現（王司）</li> <li>・東部地区に「総合病院」がほしい（清末）</li> <li>・小月駅南土地開発（小月）</li> <li>・JR王喜駅の設置（王喜）</li> <li>・奇兵隊を全国区に（吉田）</li> <li>・山陰線・山陽線が両方乗降できる駅の新設（川中）</li> <li>・休耕地の有効活用（1～2坪を家庭菜園などに→市の関与）（安岡）</li> <li>・駅裏再開発（吉見）</li> <li>・新都心の確立（勝山）</li> <li>・利用されていない田畑をソーラー施設として利用できないか（内日）</li> </ul>
元気・活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クジラ館等の既設の設備を生かして公園化する。豊功神社街道（長府）</li> <li>・神田川（風ぐるま公園）菜の花ロードの拡張、フェスタ（王司）</li> <li>・清末歴史マップの充実（清末）</li> <li>・駅裏を駐車場 パークandライド（小月）</li> </ul>

## VI. 市民会議の概要

### 1. 開催概要

#### (1) 目的

下関市総合計画後期基本計画策定に際し、現在の計画（基本構想、前期基本計画）の内容や下関市の実態について市民に説明すると共に、計画に対する意見や提言を幅広く聴取するため開催したものである。

#### (2) 日時・場所・参加者数

日時	場所	参加人数（人）
平成22年5月29日（土） 13：30～16：00	下関市生涯学習プラザ 「ドリームシップ」2階	32
平成22年6月27日（日） 13：30～16：00	「宙のホール」	10
	延べ参加者数	42

#### (3) 会議次第

##### ①第1回

- 開会・挨拶、出席者紹介
- 下関市総合計画の説明
- 総合計画の目指すまちづくり  
～こんな特徴のある下関です～  
下関市の統計データや、市民アンケート・地区別まちづくりワークショップの結果について説明を行った。
- 総合計画の目指すまちづくり  
～こんな下関にしたい～  
後期基本計画で打ち出す予定の重点プロジェクトを提示し、市民との意見交換や会場アンケートを行った。
- 閉会・挨拶

##### ②第2回

- 開会・挨拶、出席者紹介
- 下関市総合計画の説明
- 総合計画の目指すまちづくり  
～まちづくりの課題～  
基本構想における7つの施策体系ごとに、市民アンケートや地区別まちづくりワークショップの結果を紹介した上で、参加者から意見・感想等を聴取した。
- 閉会・挨拶

元気・活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小野湖を売り出す（王喜）</li> <li>・湯谷温泉を活用し老人ホームの施設建設（吉田）</li> <li>・人工島はコンテナ基地だけでなくイベント等にも利用できないか（川中）</li> <li>・北浦地区に図書館を建設する（安岡）</li> <li>・農地有効活用にNPOを含むトライアングルシステム構築（吉見）</li> <li>・音響効果を考慮した300人規模のホール（勝山）</li> <li>・市営住宅の建設（内日）</li> </ul>
安全・安心満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆トイレの充実（壇具川）（長府）</li> <li>・高磯のスクランブル化（陸橋の撤去）（王司）</li> <li>・公民館のリニューアル（交流の場を！！広く、充実）（清木）</li> <li>・国道491号の小島交差点と2号線バイパスの連結（小月）</li> <li>・幹線の防犯灯（県道33号線）王喜支所前周辺明るくして！（王喜）</li> <li>・陣屋跡の整備で観光推進（吉田）</li> <li>・川中支所の移設整備を早く 川中地区（川中）</li> <li>・深坂自然の森 溜池を全国的知名度に引き上げる（安岡）</li> <li>・上町、中町、船越 早急に定期バスの運行を！（吉見）</li> <li>・公民館の建替え（勝山）</li> <li>・活性化施設への支援（農産物直売）（内日）</li> </ul>

### (3) 旧豊浦郡（菊川・豊田・豊浦・豊北）地区

#### ①地区の特徴・問題点

地区の特徴（良い所）としては、山や海・川、ホテルなど、自然環境に関するものが特に多かった。また、住民同士のつながり等、コミュニティに関する評価も高い。

一方、問題点（気になる所）については、鉄道・バス等の公共交通について、不便さを指摘する参加者が多かった。この他には、自治会活動の維持などコミュニティに関する問題や、雇用創出など産業関連での意見も目立った。

	主 な 意 見
地区の特徴 （良い所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路網が良くなった（菊川）</li> <li>・日本一のホテル（豊田）</li> <li>・観光資源（豊浦）</li> <li>・自然が豊か（豊北）</li> </ul>
地区の問題点 （気になる所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通機関に不満が多い。特にバスの運行（菊川）</li> <li>・鳥獣被害（豊田）</li> <li>・観光のPR、観光客増加（豊浦）</li> <li>・JRの便数が少なく不便（豊北）</li> </ul>

#### ②要望・改善策等

地区の要望・改善策等をみると、「夢と目標」に該当するものとしては、農林水産業の振興や自然環境保護に関するものが目立った。また、「元気・活性化」においては、観光分野の振興策に加えて、農林水産業や自然環境といった分野でのアイディア・要望が多かった。一方、「安心・安全満足度」では、公共交通の整備に関する要望が特に多く挙げられていた。

テーマ	主 な 内 容
夢と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心施設をつくる（中心市街地をつくる）（菊川）</li> <li>・西市に大学を設置する（豊田）</li> <li>・地域カルテづくりと実施計画による実現化（豊浦）</li> <li>・（助成金をもらって）豊北元気発信プロジェクトチームをつくる！（豊北）</li> </ul>
元気・活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館の建設によるコミュニティーの場の完備（菊川）</li> <li>・みのりの丘 人寄せの目玉を作る（豊田）</li> <li>・豊浦地区に道の駅（豊浦）</li> <li>・角島の環境にマッチした「恋人の聖地」プロジェクト（4ヶ所）（豊北）</li> <li>・ケーブルテレビが入るように！光ファイバー（上下保木・日新）（菊川）</li> </ul>
安全・安心満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田中央病院の診療科目を増やす（豊田）</li> <li>・町内の小串・誠意・室津各小学校にプールがありません。新設してほしいです（豊浦）</li> <li>・JRへの要望 月1回の運休をやめて欲しい。小串の乗り換えを止める（豊北）</li> </ul>

## 2. 主な意見

### (1) 第1回

テーマ	主な内容
地域主権の推進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域主権を推進する観点からすると、下関市も自治基本条例を制定する必要があるのではないか。</li> <li>・地域主権と地域内分権の整合性が不明。サステナブルな都市を目指すという観点からみると、コンパクトシティの考え方とは反する。また、庁舎整備の推進と地域主権との関連性が分からないし、地域内分権と庁舎整備との整合性もない。こうした点をどう考えているのか聞きたい。</li> <li>・道州制と地域主権との関連性をどう考えているのか聞きたい。</li> </ul>
循環型経済の仕組みの推進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下関ブランドとして様々な商品が認定されているが、それだけでブランドの認知度を高めるのは難しく、下関市自身をブランディングしていかないと意味がない。行政が旗振りすべきか、民間主導でいくべきか分からないが、下関市自身のブランド構築に向けた基軸を作る必要がある。</li> </ul>
都市基盤の整備の推進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住環境を改善してほしい。公共交通機関の見直し、運動公園、緑道公園の整備、幡生から安岡までの道路整備等に力を入れてほしい。「深坂自然の森」を多くの人が集える施設にして、幅広い年齢層の人がボランティア活動に参加できるようにしてほしい。森林の竹林化が進むと将来的に崩落危険区域になるので、伐採に補助金を出すなど何らかの対策を講じてほしい。</li> <li>・下関駅にぎわいプロジェクトについて具体的に教えてほしい。また、下関にTMOのような組織はあるのか聞きたい。行政が誘導する形で制度設計していけば、街としての賑わいをもっと創出できるのではないだろうか。</li> <li>・市役所の位置など、そもそも都市の中心・核をどこに据えるのが重要な視点となる。どういう方向性で下関を発展させていくのか、住みよい街にしていくのかという発想を都市基盤の整備に落としこんでほしい。</li> </ul>
子どもや子育てに関する施策の推進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山口県は住みやすさ日本一の県を目指しているが、下関市の目指すべき方向性も同じだと思う。下関は生活基盤が十分でない。子どもたちが安全に安心して遊べて生活できる環境ではないと感じている。</li> <li>・下関市は、医療や教育分野で思い切った施策を打つべきだ。他の市町村と絶対的に差別化された、あっと驚くような子育て・少子化対策を期待している。</li> </ul>
地球温暖化対策の推進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマイカーデーを1年365日実施できるようなシステムを作ってほしい。</li> <li>・環境対策の先進都市である北九州市と連携して、蓄積されたノウハウ等の技術移転を進めていけば、コストの面からも良いのではないかと。</li> </ul>
市民の健康づくりの推進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下関市独自の助成金、医療・介護対策等を示してもらいたい。その独自の施策を下関ブランドと結びつけ、他の市町村よりも住みやすい街として定住促進を図るべきだろう。</li> </ul>

### (2) 第2回

テーマ	主な内容
都市基盤 ～情報があふれ、活動しやすい便利なまち～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下関にも地下鉄があると良い。路面電車ができれば良いが、実現は難しいだろう。小月から新下関にかけての国道2号線が非常に渋滞し、事故も多いので、2～3車線化して欲しいが、簡単には出来ない。小月IC～門司ICを無料にすれば、渋滞は緩和する。通勤利用を対象にする等の方法が考えられる。</li> <li>・道路も公共交通も、どちらも大事だが、両方は並び立たない。今後どちらにウェイトを置くのか定めるべきだし、全市一律ではなく、旧市内では公共交通を充実させ、それ以外では道路を整備するといった区別をしながら進める必要がある。</li> <li>・都市基盤整備については、下関のまちのあり方という視点から取り組むべきだ。そのためには、下関市内の道路を経由して北九州に通勤・通学している人がどれだけの人が、新幹線で博多に通勤している人がどれだけの人がといった点を把握しなければならない。情報通信の整備も重要で、インターネットを全家庭につなげるといった取り組みを市として進めれば、全国の注目を浴びるだろう。</li> </ul>

都市基盤 ～情報があふれ、活動しやすい便利なまち～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3点指摘したい。1つは、バスの問題である。運賃が高く、便数も少ない。特に夜間の便を増やして欲しい。そのためには、利用者を増やさないと採算がとれないので、20～60代の現役世代の人は、通勤等でバスを利用して欲しい。それから、グリーンモールや豊前田、細江の活性化を図る上で、下関駅前の人工地盤がネックとなっている。街や道路をきれいにしても、駅に行くにはコの字で進むか人工地盤を上り下りしなければならない。時代に合わないものは撤去することも考えるべき。</li> <li>・3点目は、駐車場の整備である。拠点ごとに整備すべき。バスの便が増えない状況では、過渡的な措置として必要。</li> <li>・港湾の整備も重要である。関門海峡の浚渫土砂による沖合人工島の埋め立てが進められているが、こうした取り組みは長い目でみていくべきであり、市も分かりやすく説明する必要がある。人工島に関しては、今後利用が増える可能性があり、市民も広場などいろいろな形で利用出来るだろう。また、関門海峡は風光明媚なので、外国航路の旅客船がもっと岸壁に停泊するようにしてもらいたい。</li> </ul>
自然環境・生活環境 ～人と自然にやさしく安全で安心して暮らせるまち～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートにおける、生活項目で重要度の高いものをみると、都市景観は順位が低い。旧市内では重要な問題である。丘陵地の住宅が、高齢化等で空き家になり、廃屋も増えている。これらをそのまま放置すると、景観が荒れてしまう。解体すれば良いが、その場合は更地が出来るので、活用策について行政と民間と一緒に考える必要がある。その一方で、古い町並みについては、保全の方法を多角的に検討すべきだ。</li> <li>・市内には街灯が整備されていないところが多い。予算の問題があるのかもしれないが、ここは絶対に必要だという場所にも設置されていない。</li> <li>・合併で下関市のエリアが拡大したので、地域の状況に応じた自然・生活環境の整備を進める必要がある。防犯やごみの問題については、自治会長に任せるとはならず、地域に住んでいる人が自ら解決すべきで、行政と一体となった仕組みづくりが求められる。</li> <li>・市街化区域と市街化調整区域の線引きは今後どうするのか。上下水道の整備とも関係がある。</li> </ul>
産業振興 ～将来に希望をもって意欲的に働ける自立したまち～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下関の地理を生かし、韓国との交流を通じて、産業・観光振興を進めるべきだ。中国等を含めて、アジアを視野に入れる必要がある。農業についても、豊北や豊田で、農業留学を受け入れ、コメの作り方を教えるといった取り組みが考えられる。</li> <li>・公共事業が減少する中で、地場の建設・土木業者が農林水産業に取り組む会社をつくらせたり、農業従事者を社員に採用したりするのを促進することが考えられる。農業法人の活用も、若い人の雇用につながるし、食糧危機を回避する上でも重要だ。</li> <li>・下関はアジアに近いという地理的特徴を生かすことが重要である。若者の雇用の場がないといわれるが、市内で見出せないのであれば、市外から持ってくるしかない。港を生かすことも必要だ。人工島だけでなく、彦島にも長府にもある。</li> <li>・農業振興を図るには、農地を手放しても何らかの便宜が得られる仕組みが必要だ。</li> <li>・伊倉にゆめシティが出来て、雇用が増え、不動産取引も活発になった。伊倉のような形で、企業誘致も含めた活性化に取り組んで欲しい。</li> <li>・市民アンケートでは、産業振興に対する要望が少ないようだが、お金を生み出し、人口を呼び込むのは産業であり、もっと充実していく必要がある。キーワードは「循環」であろう。地域内にとどまらず、地域外、海外まで目を向けた循環が必要である。人、モノ、お金の循環という視点で、産学官が連携しながら、下関でしか出来ない産業を創出することが望まれる。</li> </ul>
観光振興 ～観光や交流から生まれる多彩で魅力あるまち～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下関駅前の人工地盤を何とかすべきだ。平面化し、スクランブル交差点にすれば良い。上り下りさせられると、観光客が動きづらくなり、住民にも不便である。また、下関駅ビルの建て替え時には、福岡・天神のようにバスターミナルがビルの中に入れば良い。</li> <li>・下関市の宿泊客数は増えていない。通過駅のようになっている。今後、観光客の交通アクセスについて調べる必要がある。アジアからの観光客についても同様であり、観光目的についても調査することが必要である。</li> <li>・韓国からの観光客は別府等に出かけている。下関につなぎとめるための検討・努力はしていると思うが、引き続き取り組みを進めて欲しい。糖尿病の検査等、中国では需要があっても対応できない分野があるようだ。下関も青島との間にフェリーがあるので、そうした分野に目を向けることも必要だ。</li> </ul>

<p>保健・医療・福祉 ～誰もが健康で、ふれあいを大切にした温かみのあるまち～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療従事者として、ワクチンの問題が気になる。特に、予防医学上、子宮頸がんワクチンの接種について、全額補助でなくても、何らかの支援が必要だ。また、豊田地区など旧4町は、福祉施設が足りないので、対策を願いたい。</li> <li>・最近、年配の人が下関から都会に出て行っているようだ。介護保険料の違いが要因だと聞く。福祉サービスの費用対効果は都会の方が大きいのかもしれない。こうした問題についても、データを示して是正すべきだ。</li> <li>・自治会組織が崩壊寸前で、特に旧市内は高齢化が進み、若い人がいない「まちなか限界集落」の状況なので、活力ある下関に変えていく方法があればと思う。</li> <li>・声をかけたら若い世代は集まる。多くの知恵を生かすためにも、若い人の気持を汲むのが高齢者の役目である。</li> </ul>
<p>教育・文化 ～地域の特徴を活かしたまなびのまち～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある幼稚園では、教諭のほとんどが非常勤で、しかも担任を受け持っており、その一部が2月に契約打ち切りを通告されたらしい。自分が保護者であれば、非常に不安である。施設の整備も大事だが、働く人が安心して教育に専念できる環境にしていくことも、子育て支援に結びつく。</li> <li>・下関市立大学の入学枠について、市内の高校出身者の割合を引き上げることは出来ないのか。市内の出身者の中で、市内の大学に通っている人が少ないように思う。市立大学出身者を、市役所や地元企業が積極的に採用する事も含めて、地元を大切にする施策を打ち出すべきだ。</li> <li>・小学校の英語教育については、会話が出来るようなレベルにしないとダメだ。ボランティア教育についても、小学校・中学校くらいから積極的に取り組んで欲しい。</li> <li>・小学校の遊具に関して懸念がある。市の北部の学校では、生徒数が減少し、教員も少なくなっており、遊具の管理も行き届かなくなっている。事故を防ぐためにも、今後は規模に応じた適正な数にしていく必要があり、多過ぎるのであれば撤去すべきだ。</li> <li>・学校統廃合の問題をどう捉えているのか。市長が変わって方針も変わったようだが、数字を示して適正規模を検討してほしい。</li> <li>・保育園と幼稚園の一本化は、厚生労働省と文部科学省という縦割りの問題もあり、難しいようだが、下関市には一本化したこども園が2か所ある。子供の数が減る中で、園児数人では共同生活にならず、40～50人は必要だ。今後、子ども園を増やしていく方向で取り組んで欲しい。</li> </ul>
<p>協働のまちづくり ～市民も企業も行政もみんなで担える元気なまち～</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちを良くするアイデアは、色々な人が個々に持っているが、それらを結びつける機能が見当たらない。「ふくふくサポート」も、そうした機能を持っているようには思えない。市民の意見を拾い上げる仕組みが必要であり、幅広い人脈を持った人材を活用すべきだ。下関は市民の意見が上がって来ない風土のように感じている。オープンな雰囲気を醸成する必要があり、行政が積極的に関わるべきだ。</li> <li>・下関では、政治力が強い人の意見が通ってきたように思う。これからは、若い人の意見を大事にしなければならない。色々な人の意見を吟味する必要がある。</li> <li>・本庁の駐車場はいつ増やすのか。いつも待たされるので、対策をお願いしたい。</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回示された施策体系について、前期基本計画でどのような位置づけがなされたのかという説明や、その結果についてのレビューがあった上で、後期基本計画をどうするのかという進め方でないと、意見を出せといても良く分からない。結局のところ、全てを網羅した計画にしかならず、4年後も同じような計画が出来るように思う。個別の問題について、もっと現状を積み上げた形で検討すべきだ。市民アンケートでは、ごみ収集についての重要度が低いという結果だったが、実際にはごみ袋の値下げが行われた。下関市の最上位計画であるのなら、アンケート結果を踏まえた内容にし、アンケートで示された重要度に応じて予算も傾斜配分するくらいのものであれば意味があるし、市民の興味もわく。</li> </ul>